

第2次半田市子ども読書活動推進計画 概要版

第2次計画の策定にあたって



近年、インターネットやスマートフォンの普及などにより、子どもを取り巻く環境が大きく変わり、子どもの「読書離れ」が進んでいます。

半田市では、平成13年に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づき、平成23年3月に対象期間を10年とする第1次計画を策定し、子どもたちが読書習慣を身に付け、本との出会いや感動を通して知識を深め、豊かな感性を磨いていくことができるよう、子どもの読書に関する施策を進めてきました。

この度、第1次計画対象期間が満了することから、現在の子どもたちの状況を再確認し、よりよい読書支援を行えるよう、計画の内容を改訂しました。今後5年間、子どもたちが読書することでより良く生きる力を身に付けることができるよう、引き続き子どもの読書活動に関する施策を進めます。

第1次計画の概要



第1次計画では、「子どもが読書に親しむ機会の提供」「子どもの読書環境の整備・充実」「子どもの読書活動を進めるための連携、協力」を基本方針とし、家庭・地域、学校等、図書館が、それぞれの立場で子どもの読書活動を進める取組を実施してきました。また、子どもの読書活動に関する理解や関心に向けた啓発、各施設やボランティア団体等が協力して子どもたちの読書活動を支える体制の整備を進めてきました。



第2次計画の対象者と期間

計画の対象者：

子ども（概ね0歳から15歳）

計画の期間：

5年間（令和3年度～7年度）



アンケート結果

◎読書が好き、嫌いの割合

小学生	H22	H27	R2
好き	72.1%	84.1%	80.4%
嫌い	27.9%	15.9%	19.6%

中学生	H22	H27	R2
好き	67.2%	72.1%	69.7%
嫌い	32.8%	27.9%	30.3%

◎不読率（1か月に1冊も本を読まなかった子どもの割合）

	H22	H27	R2
小学5年生	10.3%	7.4%	10.3%
中学2年生	16.9%	11.4%	16.9%

過去と現在を比較してみると、小学生・中学生ともに、「読書が好き」と回答した子どもの割合が、計画策定時の平成22年度よりは改善していますが、計画見直し時の平成27年度よりは減少しています。アンケート実施が、コロナ禍の学校長期休業後であったことが影響しているかもしれないですが、着実に成果を上げてきたところに水を差す結果となってしまいました。

また、不読率についても、小学生・中学生とも改善傾向であったものが、今年度、計画策定時の割合に戻ってしまいました。

今後の課題

アンケートの結果から、読書が嫌いな子は読書がつまらない、と感じている子が多いということがわかりました。一方、小さい頃本を読んでもらった子に読書好きの傾向がみられます。

◎「読書が好き」と答えた子どもの「読書をするようになったきっかけ」

小学5年生の回答1～3位 : ①学校図書室を使うようになったから（17.5%）
 ②学校で読書時間がある（17.2%）
 ③家に本がたくさんあった（13.7%）

中学2年生の回答1～3位 : ①学校で読書時間がある（22.9%）
 ②家に本がたくさんあった（12.7%）
 ③小さい頃読んでもらった（12.3%）

読書が好きな子のきっかけとして、学校図書館の利用、学校での読書タイムが多いことがわかりました。また、家に本がたくさんあることも大きな要因であるようです。

以上から、身近な環境で本に触れることと、小さい頃からの読書が読書活動推進の鍵となるため、その整備・拡充を中心に取り組んでいくことが必要です。



この計画では、より幼い頃から子どもと本を結びつけることで、子どもたちが豊かな想像力を身に付け、人生を健やかに、かつ、より深く生きていくための力を身に付けられるよう、3つの基本方針に基づいて、子どもの読書活動に関する施策を推進していきます。

①子どもの発達段階に応じた読書支援をします

子どもが積極的に読書する意欲を高め、生涯にわたって本に親しむ習慣を身に付けるためには、読書の楽しさを知るきっかけをもつことが大切です。

より幼い頃から本に親しむことが読書を習慣づける大切な基盤であることから、「赤ちゃんと絵本の出会い事業」をはじめ、子どもの年齢に応じた支援を充実させていきます。

②子どもの読書環境の整備・充実をはかります

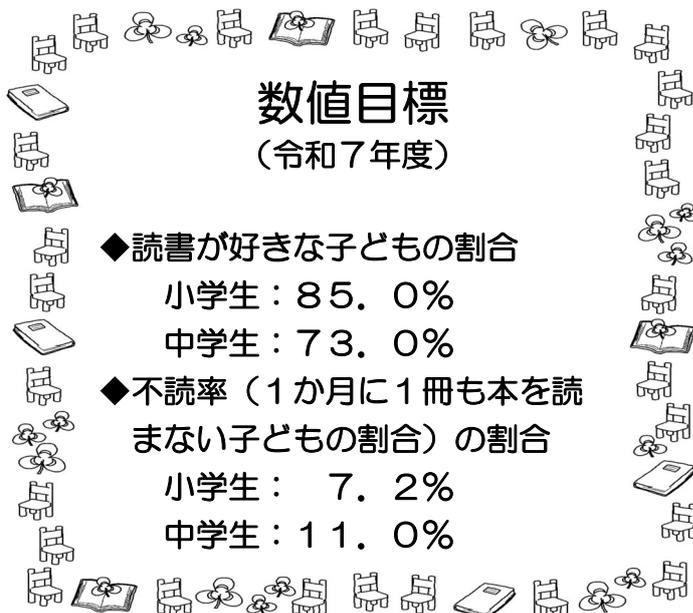
子どもがたくさんの本に触れ、読書の幅を広げ、読書体験を深めるためには、身近な読書環境を整えることが大切です。

子どもが、いつでもどこでも読書できるよう、図書館、学校、保育園・幼稚園・こども園、児童センター、公民館など、子どもの身近な施設において、図書資料や設備を充実させていきます。

③読書活動への理解、関心を高めるための啓発をします

情報化社会の進展により、本以外にも興味や関心を引くものが多い中、読書への関心を高めるためには、子どもを取り巻く様々な方向から読書の楽しさ、大切さを伝えていくことが重要です。

子どもの読書活動に関わる職員やボランティアが密接な連携を図り、相互に協力し、読書活動を支援していきます。また、子どもの読書活動を支える人材の育成を行っていきます。



計画を推進するための取組



3つの基本方針に基づいて、子どもの読書を推進していくために様々な取組を実施します。



基本方針

1. 子どもの発達段階に応じた読書支援をします。

(具体的な主な取組と実施者)

①乳幼児期における取組

- ・赤ちゃん絵本の出会い事業（保健センター・図書館）
- ・乳幼児向けおすすめ本リストの配布（図書館）
- ・保護者向け講座の実施（図書館）
- ・幼稚園、保育園、こども園での読書支援（幼・保・こども園・図書館）
- ・児童センター（館）での読書支援（子育て支援課・図書館）
- ・市立図書館での読書支援（図書館）

②就学期における取組

- ・学校における読書活動の推進（小中学校）
- ・学校等への読書支援、「家読」の啓発（図書館）
- ・読書通帳の配布（小学校・図書館）
- ・小学1年生への貸出券作成、読書案内の作成・配布（図書館）
- ・南古童話賞、南古読書感想画への取組（小中学校・新美南古記念館・図書館）

2. 子どもの読書環境の整備・充実をはかります。

- ・絵本、児童書の充実（図書館）
- ・親子で利用しやすい図書館づくり（図書館）
- ・学級文庫・学校図書館の整備、利用促進（学校教育課・小中学校）
- ・司書教諭・学校図書館担当教諭の配置（学校教育課）
- ・南古作品に親しめる環境づくり（小中学校・新美南古記念館・図書館）
- ・中高生向け読書環境の充実（図書館）
- ・外国語児童資料の充実（図書館）
- ・電子図書導入（図書館）
- ・貸出文庫の充実（図書館）

3. 読書活動への理解、関心を高めるための啓発をします。

①読書活動推進体制の整備への取組

- ・ボランティアとの協働による行事の企画、実施（図書館）
- ・ボランティア団体の連携（図書館）
- ・ボランティア育成講座の充実（図書館）
- ・市立図書館と学校図書館の連携（小中学校・図書館）

②読書活動に関する広報や、啓発活動強化への取組

- ・「読書の日」等における啓発、広報の充実・SNSの活用（図書館）
- ・図書館キャラクターの活用（図書館）

(計画の閲覧方法)

計画の本編及び詳細は、半田市のホームページでご確認いただけます。

URL <https://www.city.handa.lg.jp/tosho/keikaku.html>

書面での閲覧をご希望される方には、郵送することも可能です。

(お問い合わせ) 半田市教育部半田市立図書館

〒475-0928 半田市桐ヶ丘 4-209-1

電話) 0569-23-7171 FAX) 0569-23-7174

E-mail) tosho@city.handa.lg.jp



計画本編等の閲覧はこちら↑